九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Pathways to Indigenous Disempowerment: The Russian State, Arctic Regions and Corporate Strategies

リュボフ, スリヤンジガ

https://doi.org/10.15017/2534512

出版情報：Kyushu University, 2019, 博士（学術）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

（様式６－２）

氏　　名	Suliandziga Liubov
論　文　名	Pathways to Indigenous Disempowerment: The Russian State, Arctic Regions and Corporate Strategies （先住民族無力化への道程 : 北極圏ロシアにおける国家および企業戦略）
論文調査委員	主　査　　九州大学　　准教授　相沢伸広 副　査　　九州大学　　教　授　松井康浩 副　査　　九州大学　　准教授　鬼丸武士 副　査　　九州大学　　講　師　コルナトウスキ　ヒェラルド 副　査　　九州大学 EU センターアドバイザー　八谷　まち子

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

本論文は、ロシアにおける極北地先住民の権利および生存圏がなぜ、そしてどのように脅かされてきたかを明らかにするものである。具体的にはロシア連邦政府の極北地政策、および、資源エネルギー関連企業の北極圏開発が、先住民の権利そして、極北地先住民の生存圏を侵食していった過程を詳述した。本論文の特筆すべき点は第一にこの問題を Murmansk、Komi、KHMAO、Sakha、Yakutia、 Chukotka、 Sakhalin の、６つの共和国、自治管区、州について各所における極北圏住民に対する連邦政府、地方政府そして各資源エネルギー企業による施策、行動を詳述したところにある。第二に政府、資源エネルギー企業が先住民を周辺化する上で具体的に多様な手法を用いていたことを明らかにした。それは時に経済的ツールを駆使して議会工作をする方法であり、時に法的ルールの変更で先住民の権利主張、抵抗の機会を奪い、加えて国際社会に訴えることを阻止するために、先住民権利の代弁者としての資格を剥奪するなどの方法をとった。これらの詳細を明らかにするとともに、ロシアにおける環境 NGO の不在という、本来先住民権利の擁護者となりうるパートナーの不在等、重要となるロシア社会的政治的前提条件についても分析し、明らかにした。

極北地の経済開発が先住民の生活を脅かしていることは先行研究より周知であったが、これまでその具体的な方法、そして一口に北極圏といっても様々な対応がある点が本論文で明らかにされた。他の極北圏各国が、開発主体に対して先住民の権利保護を義務付けるなどの施策をとる中で、ロシアだけが徹底的な権利、言論、文化の封殺を行っており、従って国際機関においても声を上げることが困難であったが、なぜそのような違いが生じるのかは明らかでなかった。この点を歴史的にまた政治的に分析した本論文は、ロシアの構造的な極北圏先住民弾圧のメカニズムを明らかにするとともに、国際政治を活用しながら先住民が生存確保を行ってきたプロセスがなぜ効果的でないのかについてまで射程に入れ分析することに成功した。これは従来の「権利」に注目する先住民研究にはなかった政治的、歴史的な分析視覚であり、膨大な情報収集と情報分析が必要となる学術的に非常に高い価値のある分析結果を提示しており、博士（学術）論文として十分な水準に達している。

最終口頭試験においても、経済開発とマイノリティを巡る政治との比較の観点やロシアと他の北極圏各国との対応の差、また、こうした北極圏先住民に対する厳しい政策について詳述する学術的価値についてなど、すべての質問項目に対して的確に応答をしていた。

以上を総合的に勘案し、本提出論文は博士（学術）の学位に値すると認める。